

フィルタリング

フィルタリングとは

フィルタリングは玉石混淆のインターネットの情報の中から、特定の意図に基づいた方法で情報を評価・判断し、必要に応じてそれらの情報を遮断する仕組みである。

具体的には、子どもたちに見せたくない**出会い系サイト**(→p.61)や、アダルト情報、暴力的な表現のあるサイトなどをふるいにかけて選び出し、**視聴を制限するシステム**である。

フィルタリングは子どもだけでなく企業にも利用される場合がある。例えば、会社の営業時間中に業務と関係のない株取引などの閲覧などから遮断するために使われている。

フィルタリングの設定

パソコンにフィルタリングを設定するには、以下の3つの方法がある。

- ① 使っているパソコンにそれぞれ端末用のフィルタリングソフトをインストールする。
- ② インターネットの回線の根幹の部分にサーバー型のフィルタリングシステムを導入する。
- ③ 通信会社のフィルタリングシステムを利用する。

携帯電話にフィルタリングを設定するには通信会社のフィルタリングシステムを利用する。平成20年の「**青少年インターネット環境整備法**」(→p.54)では、インターネット接続サービスを提供する携帯電話・PHS事業者に対して、利用者が18歳未満の青少年である場合には、保護者からの申し出がある場合を除いてフィルタリングサービスを適用することを義務付けている。

フィルタリングの方式

フィルタリングの方式として、特定の規準に基づいて有害と判断されたWebページを遮断する「**ブラックリスト方式**」とあらかじめ登録された特定のWebページしか見せないようにする「**ホワイトリスト方式**」がある。

また、Webページの内容ではなく閲覧する時間に制限をかけるものもある。どのページを見せないようにするかは学校や家庭で異なるため、それぞれのポリシーに合わせて、表示禁止にしたいページの種類を選ぶことも可能になっている。

過信は禁物

フィルタリングシステムを導入しても完全に有害情報を遮断することはできない。また、次々に生まれる新しいWebページにフィルタリングシステムは対応できないため、あくまでも有害情報から子どもたちを守る方法の1つであると理解する必要がある。

そのためには、フィルタリングを過信せず、ブラウザの履歴を調べたり、子どもたちとのコミュニケーションを図ったりするなど様々な方法で子どもたちを有害情報から守らなければならない。

インターネットは世の中の縮図

インターネットは世の中の縮図である。リアルな現実の世界から様々な人が思い思いの意図を持ってインターネットに参加し、情報を送り込み、情報を受け取っている。

世の中の縮図である以上、参加する人間は善人だけでなく、発信される情報も役に立つ情報もあれば、有害な情報もある。

特に、ネットワークを介した情報のやりとりでは、相手の顔が見えないため、**匿名性**(→p.66)が高く、**有害情報**(→p.99)が集まりやすい。

同時に、ネットワークは大人も子どもも区別されず、インターネットの情報は検索サイト(サーチエンジン)を使えば簡単な操作で誰でも情報を手に入れることができる。このため、倫理的・社会的判断力の未熟な子どもたちがインターネットを無防備に使ってしまうと、子どもたちが様々な危険と向き合うことになるのである。